

家を新築される方に

「家に関わるおまつり」

ご家庭の基礎となる「家」を建てるにあたって、昔から我が国ではいくつかの「おまつり（おはらい）」が行われています。ここにあげるおまつりは、それぞれが大切な役目を担っており、一つとして欠かせないものであります。

一、地鎮祭（じちんさい）

「じまつり」とも呼ばれるこの祭事は、文字どおり氏神様をはじめとする土地を司る神様をおまつりして家を建てる土地をおはらいし、工事の始めにあたって作業の安全な進行を祈願します。また、鎮め物を埋納します。



地鎮祭祭場(例)

二、上棟祭（じょうとうさい）

「たてまえ」あるいは「むねあげ」とも呼びます。棟木をあげるにあたり、家屋、工匠を司る神様をおまつりして、建物の堅固を祈願します。ご近所へのお披露目、ご挨拶の意味もあります。また、棟木に幣串・上棟札をつけます。ご希望により棟札をご用意いたします。



幣串



上棟札



鎮め物

三、家被（やばらい）・神棚入魂式（かみだなにゆうこんしき）

完成した家の全ての部屋をはらい、神様を神棚にお迎えして工事の無事終了を感謝するとともに、より長い家族の繁栄と家の堅固を祈願します。神棚入魂式は、神殿を（新規で・取り替えて）設置する時に行うおまつりです。

四、解体祭（かいたいさい）・神棚納祭（かみだなおさめさい）

家を取り壊すにあたり、今まで過ごしてきた感謝と工事の安全、厄災・因縁をおはらいします。また、撤去されるときは、神棚納祭を、移転されるときは転居のおはらいを行います。取り壊しの後にもう一度建てる場合（建て替え）は、更地になった時点で、地鎮祭を行います。



を行います。